移民規制レジームによる重層的な剥奪の構造的メカニズム

——米国からメキシコへの被強制送還者のライフヒストリーから——

The Structural Mechanism of Multi-Layered Deprivation under a Restrictive Immigration Regime:

Based on the Life Histories of Mexican Deportees from the United States

飯 尾 真 貴 子

IIO Makiko

This paper sheds light on the consequences of deportation on Mexican deportees, and, more importantly, it reveals, through the use of the notion of 'multi-layered deprivation,' the structural mechanism behind the obstacles and distress they experience, which are caused by a restrictive immigration regime. Such a mechanism of multiple deprivation occurs in two stages. The first stage takes place when restrictive border controls deprive undocumented immigrants of free mobility across the border, which leads to the consolidation of immigrants' settlements within the United States. Through this settlement process, many immigrants put down roots in American society and, due to a lack of free mobility, gradually lose close contact with their family in Mexico. This creates a fragile social relationship in their transnational social space. The second stage occurs when the actual deportation occurs. In addition to the severe material and social deprivation caused by the deportation, the loss of social capital in Mexico that was caused in the first stage may result in further marginalization for the deported returnees.

1. 問題の所在

これまでの数十年が無に帰してしまった。何のせいで？ 不法移民だから、正規の滞在許可証をもっていないから。彼ら〔米国政府〕は、私たちが持っていたもの全て、夢、そして未来をも奪ったんだ（フランスシスコ 43歳）⁽¹⁾。

グローバル化の進行と共に越境的な人の移動が加速する一方で、国民国家による「非合法」移民への取締りや強制送還を用いた社会的排除の傾向が強まっている。その一例として冒頭に取り上げた語りは、米国ミネソタ州に妻と米国生まれの息子三人と共に12年間にわたって暮らしてきたフランスシスコのものである。「非合法」移民であった為に移民取締局によって何の前触れもなく拘束されメキシコに強制送還されたフランスシスコは、米国に残された家族との別離を余儀なくされた。このような強制送還による帰国が顕在化している背景として、欧米を中心とした移民及び難民政策の厳格化が挙げられる〔De Geneva & Peutz 2010 ; Gibney 2008 ; Kanstroom 2012〕。

特に米国においては、1990年代から国境管理の厳格化が進行し、2001年の同時多発テロが引き金となり、国家の安全保障の枠組みに組み込まれた新たな移民政策が展開される事となった〔Alarcón & Becerra 2012 ; Kanstroom 2012〕。米国移民取締局の統計データに基づく（図1参照）、2000年代から被強制送還者数は大幅に増加し、2010年には38万人に上った。なかでもメキシコへの強制送還者数は、全体の72.8%を占めている。

このような現状を受けて、特に2000年代から主に移民規制に関する法律や政策、そし

図1 米国による強制送還者数（1996-2010）

点線：メキシコへの強制送還者数

て強制送還が移民とその家族に与える影響について研究が蓄積されている。より最近では、強制送還前の法的または実践のプロセスに関する詳細な記述だけでなく、被強制送還者を含めた非自発的帰国者の労働市場への編入や帰国後の社会への適応に関する調査も注目され始めた [Schuster & Majidi 2013 : 222]。しかし、厳格化する移民規制レジームが被強制送還者に与える社会経済的影響を体系的に明らかにした研究は管見の限りでは乏しい。本稿の目的は、米国における移民規制政策の変遷を辿ると同時に、被強制送還者の語りをライフヒストリーとして再構築することを通じて、強制送還を移民規制レジームの一環に位置付け、強制送還が「非合法」移民にもたらす衝撃とその構造的メカニズムを明らかにする事である。

2. 先行研究の検討

(1) 強制送還に関する先行研究

「強制送還時代の到来 (deportation turn)」 [Gibney 2008 : 148] とジブニーが述べるように、1990年代中盤から欧米を中心とする移民受入れ国による移民規制の厳格化と大規模な強制送還政策をうけて、強制送還に対する研究者の関心が近年高まっている [Anderson, Gibney & Paoletti 2013 ; De Genova & Peutz 2010 ; Gibney & Hansen 2003 ; Kanstoom 2007, 2012 ; Schuster & Bloch 2005]。強制送還は、国家と非市民との間の責任関係を完全に終結させるための国民国家による権力行使であり [Anderson, Gibney & Paoletti 2013 : 1]、近年の国境管理の不首尾を補完する「入国後の社会統制」としての機能を担っている [Kanstroom 2007 : 5]。

強制送還に関する研究には、法的側面からのアプローチ [Kanstroom 2007, 2012]、シティズンシップ研究との連関にみる強制送還の理論化 [De Genova & Peutz 2010]、強制送還とそのプロセスが「非合法」移民とその家族に与える社会的影響 [Coleman & Kocher 2011 ; Hagan et al. 2008 ; Phuong 2005] や強制送還に対する抵抗 [Hagan, Rodriguez & Castro 2011 ; Nyers 2003] といった主に強制送還に至るまでの前段階からそのプロセスに着目した研究が挙げられる。また一方で、強制送還が実施された後、すなわち強制送還後における帰国移民の出身社会への適応や労働市場への編入などに焦点をあて

た研究の蓄積もはじまっている [Ruben, Van Houte & Davids 2009 ; Shuster & Majidi 2013]。

近年の強制送還に対する関心の高まりの一方で、歴史的視座にたつと、強制送還は真新しい現象ではなく国民国家の「敵」あるいは「望ましくない者」と看做された非市民を国外へと追放する装置として常に機能してきた。従って、強制送還をあたかも真新しい現象とするのは適切ではない。[De Genova & Peutz, 2010 : 1-65] しかし、米国においては、2001年の9.11同時多発テロを引き金に、移民政策が国家の安全保障政策に組み込まれることによって、国境管理に重点をおいた「線のあるいは帯状の管理」から米国内に既在する移民を対象とした「領域内の面的、全域的管理」(小井土 2013 : 71)へと変化する大きな転換点となったことが指摘されている [Alarcón 2012 ; 小井土 2013 ; Coleman & Kocher 2011]。ただし、1990年代前半から始まった国境管理の厳格化から1990年代後半における国内規制への布石的役割を果たした法制度の構築、そして9.11同時多発テロ以降に繰り出されてきた様々な移民取締政策が強制送還の対象者にとってどのように経験され、それが彼ら・彼女らの強制送還後の生活にいかなる帰結をもたらしているのかといった問いは焦点化されてこなかった。

次に、このような強制送還に関する研究は、移民研究全般においてどのように位置づけられるのか検討したい。ここで注目すべきは、1980年代以降台頭した移民のトランスナショナル視覚である [e.g. Massey et al. 1987 ; Schiller et al. 1992 ; 小井土 2005]。この視点は、移民が受入れ国に「同化」するだけでなく、出身地域との社会関係を維持する持続的で密度の高い個人や集团的ネットワークの結合を通じた文化、経済および政治的实践によって「トランスナショナルな社会空間」[Faist 2000]を形成することを明らかにした。このパラダイム生成の一翼を牽引したマッシーらは、移住における社会的なネットワークの生成を通じて、一方向的な移動を越えた恒常的で双方向的な移動の流れが形成され、国境を越えたコミュニティが特定の地域間に構築されている事を明らかにした [Massey et al. 1987]。また、グアルニーソは移民による草の根の水準における越境的実践を、国家のエリートが主導する上からのトランスナショナルな過程と対比して、「下からのトランスナショナリズム」として提示した [Guarnizo & Smith 1998 : 3-34 ; 小井土 2005]。このようなトランスナショナル視角の流れを受け継ぎ、移住と送出し地域における開発との連関を論じた研究は、移民の同郷者団体による集团的な送金を通じた出身地域との社会経済的および政治的関わりに着目する事によって、移民が送出し社会の開発に重要な役割を担うエージェンシーとして描き出した [Smith 2006 ; Goldring 1999 ; 2003]。しかし同時に、このようなトランスナショナル視角を共有した研究によって、国家の境界管理による自由な越境的移動への制約的側面は背景へと退き、逆に移民の自発的で循環的なモビリティの潜在性が全面に押し出される事となった。

これに対してヘルナンデス＝レオンが「移民のトランスナショナルな、あるいは越境的な活動に関与する能力は国境管理や移民の法的地位による」[Hernández-León 2008 : 191]ため、万人がトランスナショナルな社会空間から生まれる恩恵を享受できるわけではないと論じたように、楽観的なトランスナショナル視角に対する懐疑的な意見も提示された⁽²⁾。また、マッシーらは、1990年代における国境管理の厳格化が越境のコストとリスクを高め、逆説的に国内に留まる移民を増加させた事を論証し、国境管理と移民の法的地位が越境的な移動を規定する事を明らかにした [Massey et al. 2002 : 105-141]。すなわち、国

境管理の厳格化が移民の越境的モビリティを剥奪する事によって、意図せざる定住化が進行する。その結果、定住化した移民は故郷とのつながりを喪失する傾向にあるとマッシー[1986]が論じたように、移民のトランスナショナルな社会空間の断裂化につながると考えられる。

以上に見てきたように、国境管理の厳格化が移民のトランスナショナルな社会空間に与える影響がこれまで明らかにされてきたが、2001年同時多発テロ以降のさらなる移民規制の厳格化と大規模な強制送還政策の実態を織り込んだ議論は未だなされていない。従って、本稿は強制送還者の個々の経験をライフヒストリーとして再構築し、強制送還を米国の移民規制レジームの変遷に位置づけることによって、米国の移民規制の厳格化がどのように移民のトランスナショナルな社会空間の断裂を引き起こし、それが結果的に強制送還後の経験をどのように規定しうるのか、その構造的なメカニズムを明らかにすることができる。

(2) 研究視角：重層的な剥奪の構造的メカニズム

強制送還に至る前の受入国における移民規制の厳格化が「非合法」移民に与える影響を検討する上で、デポータビリティ (deportability) [De Geneva & Peutz 2010 : 14] は極めて重要な概念である。デポータビリティとは強制送還を受ける可能性がある恒常的状态を意味し、デ・ジェノバはこの概念を用いる事によって、強制送還それ自体をただ問題とするのではなく「非合法」移民がそのような脆弱性に常にさらされる事の問題性を指摘した [De Geneva & Peutz 2010 : 14]。デポータブルな存在であるという事は、様々な社会的資源へのアクセスが制限されていることでもあり、その意味で「広義の社会的排除」[Barnes 2005 : 8-22] で論じられた問題にも呼応する。しかし、本稿は強制送還が単なる「排除」に留まらず、移民がそれまでに蓄積した資源や社会関係を国家がより意図的に奪うという側面を強調するために「剥奪」を用いる。デポータビリティを内包しながら物質的および社会的剥奪が重なりあう被強制送還者の経験を「重層的な剥奪」として提示し、移民規制レジームの変遷と被強制送還者のライフヒストリーとの連関の中で明らかにする。

本研究は、この重層的な剥奪を米国の移民規制の変遷において主に二つの段階に分けて分析する。第一段階では、国境管理の厳格化と国内の移民規制がより激化することにより、「非合法」移民らの自由な越境が困難となり意図しない定住化へと水路づけられていく。ここでは、非正規滞在者が「非合法」であるがゆえに恒常的にデポータブルな存在として社会的に排除されるだけでなく、トランスナショナルな社会空間の編成に寄与する越境的なモビリティが剥奪されていると考える。そして、デポータブルな存在であった「非合法」移民が実際に強制送還を経験する第二段階において、移民は強制送還によって物質的および社会的剥奪を受けるだけでなく、故郷との繋がりが脆弱化しているが故に出身社会における社会関係資本を喪失し、強制送還後の生活においてより深刻な周縁化に直面する。

(3) 調査方法とデータの特徴

本稿は米国の最大の送出国であるメキシコに着目し、2011年2月～3月と9月にメキシコ・シティの周辺部に位置する大衆居住区ネサワルコヨトルで実施した計3ヶ月のフィールド調査における参与観察および63人の帰国者への聞き取り調査に基づいている。

インタビュー対象者は米国への移住経験をもつ事を唯一の条件として機縁法を用いて選定し、半構造化インタビューを実施した。63人のインタビュー対象者の中で強制送還によって帰国した者は21人おり、その中から数人の聞き取りデータを本稿の議論に用いた。21人のうち、女性2人を除いて、他は全て男性であった。男性に比べて女性が少数であった背景として、米墨間の移民は一般的に男性が圧倒的多数である事、また移民取締局や警察がヒスパニック系の男性を人種的ステレオタイプに基づいて「非合法」移民摘発のターゲットとしてきたことが、その内在的要因の一つとして考えられる。

21人の強制送還者は主に、1) 麻薬売買や強盗といった「重罪 (felon)」による強制送還 (7人)、2) 交通違反や職場そして自宅における取締を端とした強制送還 (7人)、そして3) 国境警備隊によって国境沿いで拘束された強制送還 (7人) に分けられる。本稿の調査対象者のデータでは、1996年以前に国境警備隊に捕まり強制送還された者は一人に留まり、それ以外は2001年以降に集中している。特に2001年から2006年の間の強制送還者は7人で、2006年以降強制送還されたものは13人にのぼる。そして、2001年以降の強制送還者は、米国の国内規制によって拘束された者が大半であった。14人以上が米国に4年間以上滞在しており、その中には米国に15年以上継続的に居住していた場合もあった。

3. 米国における移民規制政策の変遷

実際のフィールド調査で得たデータからライフヒストリーを再構築していく前に、米国移民規制の変遷と「非合法」移民の置かれた状況について提示しよう。米国の「非合法」移民をめぐる移民政策の変遷は小井土 [2010: 87] による整理を参照しながら次の4つの段階に区分できる: 1) 1965年～1985年の「非合法」移民の発生時期、2) 1986年～1995年の第一次移民政策期、3) 1996年～2001年の重層的移民管理体制の形成期、4) 2001年以降の強制送還者数増加期。

第一段階の1965年から1985年は、米墨二国間協定であるブラセロプログラムが廃止されたことによって「非合法」移民が増加したものの、国境規制がほぼ皆無であった事から比較的自由的な越境的往来が可能であった [小井土 2013: 69]。第二段階への転換期は1986年移民改革統制法 (Immigration Reform and Control Act of 1986: 以下 IRCA) である。これによって、アムネステイが実施され、およそ280万人の「非合法」移民が合法化された。この時期から国境壁が段階的に構築されるようになったが、移民はまだ大きな制約を受けずに越境する事ができた [Cerrutti & Massey 1990: 17-44; 小井土 2013: 69-70]。国内規制においても、「非合法」移民を雇用することによる雇用者への処罰が設定されたが、「非合法」移民だと知って雇っていた場合にのみ罰せられるという抜け穴的条件のおかげで実質的な効力はなかった [小井土 2013; Cerrutti & Massey, 1990]。この1986年のIRCAによる大規模な合法化を最後に20年以上が経過し、「非合法」移民の滞在が長期化することによって家族形成が進行した。特に1990年以降は、家族の呼び寄せが増加し、出生地主義に基づいた米国市民権を有する子どもが生まれることによって、異なる法律的な身分が混在した「複合身分家族」[Fix & Zimmerman 2001] が多く形成された [小井土 2013: 73]。

この一方で、移民規制の厳格化がより明示的に進展したのが1996年から2001年までの第三段階にあたる。社会福祉改革の一貫に位置づけられる1996年個人責任及び就労機会調整法 (Personal Responsibility and Work Opportunity Reconciliation Act of 1996: 以下

PRWORA)」と1996年不法移民改正及び移民責任法 (Illegal Immigration Reform and Immigration Responsibility Act of 1996 : 以下 IIRIRA) によって、1960年代から70年代にかけて革新的とされていた諸政策が、より「非合法」移民に排他的な政策へと転換した。PRWORAは、「市民」でないとされる人々のカテゴリーの解釈を拡大し、教育と緊急の医療サービス以外の社会保障から「非合法」移民を排除した。そして、IIRIRAによって、強制送還に至る条件や法的プロセスが緩和され、大規模な強制送還政策の布石が打たれた。このような「非合法」移民に対する社会的および制度的排除の結果、「非合法」移民を正規化するルートがより一層制限されることによって法的身分の固定化が進行した [Fix & Zimmermann 2001]。

このような流れを引き継ぎながら、ブッシュ政権下で起きた2001年の9.11同時多発テロは、第四段階にあたる移民政策に関する最も重要な転換期をもたらした [小井土 2013 : 70-71]。特に、移民行政と規制の両方を担ってきた移民帰化局 (Immigration and Naturalization Service) が大規模な省庁編成に伴って司法省の管轄から国土安全保障省 (Department of Homeland Security) に編入され、「移民取締・関税執行局」(ICE : Immigration and Custom Enforcement) と「市民権・移民支援局」(CIS : Citizenship and Immigration Service) の二つに分割された [小井土 2013]。このような省庁編成によって、移民政策は安全保障システムの論理と結び付けられ集権化される事になったのである [Alarcón 2012 ; 小井土 2013]。

これに加えて、1996年に既に可決されたIIRIRAにおける287 (g) 条項が実際に施行された事によって、国土安全保障省の下、市・州警察が移民取締機関としての機能を果たす事が可能になった [Alarcón 2012]。すなわち、この条項によってそれまで移民の法的地位に関わらず、全ての住人のためにコミュニティの治安維持を担ってきたはずの警察が、人々の生活空間において移民取締の機能を担うようになったのである⁽³⁾ [Waslin 2010]。

また、ブッシュ政権の第二期、2005年には延期されていた移民改革への機運が高まるが、実際に下院で可決されたのは、「非合法」移民であることそれ自体を「重罪人 (felon)」として規定したセンセンブレナー法案 (Sensenbrenner Bill) であった [小井土 2013 : 71]。これによって、「非合法」移民に対する「全面的なスティグマ化」 [小井土 2013 : 71] が推し進められたのである。更に、「コミュニティの安全プログラム (Secure Community Program)」や「逃亡者プログラム (Fugitive Program)」によって、ICEが優先度の高い「犯罪者」を効率的に強制送還する事を目的とし、「犯罪者」として登録された指紋データとICEのデータを照合させることを可能にした。これによって、ICEは刑務所の服役を終えた、あるいは運転免許の不携帯などを理由に拘束された「非合法」移民を米国市民か否か即座に判別し、すぐに強制送還する事が可能となった [Waslin 2010 ; Alarcón 2012]。

これに加えて「非合法」移民の生活に大きな困難をもたらしたのは、生活の糧となる労働現場から「非合法」移民を排除することを目的とした連邦政府によるE-verifyシステムの導入であった。このシステムは、2005年から本格的に使用されはじめた電子ID認証プログラムであり、雇用主が移民取締局のウェブサイト上から新たに雇用する者の社会保障番号を入力すると、それが連邦政府の持つデータシステムと照合され、その人物の滞在資格を確認できるというプログラムである⁽⁴⁾ [Rosenblum 2011]。以上見てきたように、米国の移民規制は単なる象徴的な国境管理に留まることなく、米国内における「非合法」移

民に対する規制をより強化し、社会的排除の傾向を強めてきた。その最終的な形態として、大量の強制送還を推し進めるための様々な法的措置が仕組まれてきた。

4. 強制送還者のライフヒストリーからみる重層的剥奪の構造的メカニズム

(1) 第一段階：越境的なモビリティの剥奪による定住化

第三章で述べたように、国境管理を含めた移民規制の厳格化の帰結として移民の定住化が進行したことは、本稿の議論の第一段階にあたる。前述した議論を踏まえて、被強制送還者のライフヒストリーを再構築する事によって、かれらが定住化へと水路づけられた背景、そして資本の累積や仕送りの有無に着目することで、移民規制の厳格化がトランスナショナルな社会空間にもたらす影響を明らかにしたい。

滞在の長期化によるトランスナショナルな社会空間の断裂を生む要因として、「非合法」滞在者という法的地位を端にする越境のリスクとコストの増加、そして米国における家族形成が挙げられる。ダニーロは2005年に生まれたばかりの子どもと妻と一緒に米国のフロリダ州へ移住し、2008年に2人目の子どもが米国で生まれたことによって米国社会に根を降ろしていった。「非合法移民である事から警察や移民取締局の目を気にしてストレスを感じていた」⁽⁵⁾と語るように、ダニーロは自らのデポータビリティを自覚し強制送還されるまでの7年間一度もメキシコに帰らなかった。米国での滞在が長期化する中で、ダニーロは妻の親戚が経営する建設業で安定した収入を確保し、車や家の購入を通じた実質的な定住化が進行した。

また、このダニーロの事例と類似するのは、冒頭でも取り上げた2人の米国籍の子どもと事実婚の妻と家族を形成し1999年から2011年まで12年間米国に暮らしたフランシスコの事例である。同じ「非合法」滞在者であった女性とミネソタ州で同棲をはじめ、越境のリスクとコストを避けて滞在が長期化していく中で、2005年と2009年に息子二人が誕生したことが米国社会への定住化を決定づけた。米国における家族形成が進行するにつれて、「メキシコに帰ることは考えていなかった」⁽⁶⁾と述べたようにメキシコに残された両親へ仕送りをする代わりに、米国で家を購入するなど生活基盤を築くために資源を集中的に投資することを選んでいく。

この二つの家族に共通するのは、「非合法」滞在者である両親に米国市民権を持つ子供が生まれ、「複合身分家族」[Fix & Zimmerman 2001]として家族形成が進行してきた点である。越境的なモビリティが剥奪され滞滞在長期化することによって、彼らは獲得した資源をメキシコではなく米国の生活基盤へと注ぎこんだ。このように米国に深く根付いていくことは、一方でトランスナショナルな紐帯が脆弱化することを意味した。

次に示すクララの事例は、家族形成がなされなくとも移民のライフサイクルと移民規制の厳格化が連動する事によって滞滞在長期化する移民の姿を如実に表している。1997年から米国に滞在したクララは知人とのトラブルから警察沙汰となり、「非合法」滞在者である事が明るみに出た。これによって2005年に初めて強制送還されるが、その後2006年に再び米国へ向かった。その際、越境にかかった2600ドルは、家族や友人に借金をして捻出したという。クララは時給9ドルの工場で働きはじめたが、2005年に導入され始めたE-verifyシステムに危機感を覚えた雇用主によって、彼女を含めた「非合法」移民が一斉解雇される事態が起こった。その後、ようやく新たに電化ストーブのリサイクル工場の職を得たが、その時給は最低賃金にも満たないわずか4ドルであった。すなわち、デポータ

ブルな存在である「非合法」移民が国内規制の厳格化のもとで更なる低賃金労働へと追いやられる一方で、越境にかかった高額な借金の支払いや貯蓄を達成するには滞在の長期化が不可避となる。加えて、米国滞在中にクララの母親が死去し、一人息子が成人したことによって、メキシコへの仕送りを継続する強いインセンティブを失い、クララとメキシコの家族を繋ぐトランスナショナルな紐帯は脆弱化していったと考えられる。

これまでの事例は、定住化を通じて米国に資産を蓄積してきた移民について取り上げてきたが、その一方で物質的な蓄積が何もないまま強制送還に至ったアルフォンソのような事例も認識されるべきだろう。また、幼少期に親に連れられて米国へ越境したアルフォンソに着目することは、米国で社会化されながらも「非合法」移民であることによって強制送還の対象となってきた1.5世代や2世代にあたる若者の経験を考える上で示唆的である。アルフォンソは、1989年に生後8カ月の時に母親に連れられて越境し、その後23歳で強制送還に至るまで米国で暮らしてきた。ロサンゼルスで低所得者層が集住する地域に居住し、母親はシングルマザーとして昼夜働きづめだった為、彼の面倒をみたのはギャングメンバーの一員でもあった長兄とその友人たちであった。アルフォンソ自身は、正式なメンバーではなかったが、常にギャングの活動に携わる人々に囲まれて育ったともいえる。10代の早い時期から飲酒や常習的なマリファナの吸引をはじめ、17歳だった2006年に強盗犯罪を引き起こし青少年向けの刑務所に収監された。服役後、「犯罪者」を探知し強制送還する事を目的とした「コミュニティの安全プログラム」によって、米国育ちのアルフォンソもまた「非合法」移民として移民取締局の強制送還者リストに挙がる事となった。アルフォンソのような移民は、米国における資産の蓄積はなくとも、「分節化された同化(segmented assimilation)」⁽⁷⁾ [Portes & Zhou, 1993 : 74-93] と呼ばれる米国の周縁化された底辺層に同化する道を辿っており、米国社会の一部に根付いてきた事はまぎれもない事実である。

このような生活世界を全て米国で構築してきた第1.5世代や第2世代は、あたかもトランスナショナルな社会空間と無縁であるかのように考えられるが、必ずしもその想定は妥当とはいえない。米国ニューヨークに生きるプエブラ州村落部出身の第1世代が、休暇などを利用して第2世代にあたる子どもたちを故郷に送り込む事例が報告されているように [Smith 2006]、往還的な移動が可能となる条件さえ揃っていれば、米国育ちであっても両親の故郷とのトランスナショナルな社会空間を維持および強化することができる。しかし、アルフォンソの事例が示したように、移民規制が厳格化してきた米国において、彼だけでなくその母親も「非合法」移民であったことからモビリティは剥奪され、出身社会との社会関係を喪失しトランスナショナルな社会空間を維持することはできなかったと考えられる。

以上見てきたように、重層的な剥奪の第一段階において、移民規制の厳格化によって移住のリスクとコストが高まり国境の自由な往来が制限されて滞在が長期化するなかで、結婚や出産といった移住者の家族形成を含めたライフサイクルとも相まって、「非合法」滞在者の多くが定住化へと水路づけられていった。これは同時に、メキシコの出身社会における家族への仕送りや頻繁な連絡の減少を意味し、従来のトランスナショナルな社会空間の断裂を引き起こしてきたといえる。

(2) 第二段階：米国から根こそぎにされる移民の物質的及び社会的な剥奪

では、実際の強制送還によってどのような剥奪が起こるのか、第二段階における重層的剥奪を明らかにしたい。多くの強制送還者は、自らのデポータビリティを認識しているが、例えばアルフォンソが「自分が強制送還されるなんて思ってもみなかった」⁽⁸⁾と振り返るように実際の収容や強制送還はそれまでの日常を根本的に覆す突然の出来事として経験される。ダニーロをはじめとする数人の強制送還者は、車を運転中に警察による交通規制の一つであるチェックポイントで止められ、運転免許がないことを理由に拘束された。その後、「非合法」滞在者である事が発覚し移民取締局に身柄を引き渡されて強制送還に至っている。ダニーロは彼の強制送還の経験を振り返って、次のように吐露した。

最も辛かった事は、全てを失う事だよ。結局おれは米国で築いた全てを失って、何も持たないままメキシコへ帰ってくるしかなかったんだ…息子、家族、そして金もすべてさ。俺には今何もない。本当に、とても苦しんだんだ。…ひどいものだった。朝の2時から3時になるとね、そこのソファに座って一人で泣いたんだ。息子たちのことを思い出すんだ。この時間だったら息子たちと一緒にいて、俺と一緒に一人がこっち側、もう一人を反対側に抱えて寝ていたのにな。でも、ここにはいないんだよ。そういう想い出が追いかけてくるんだ。⁽⁹⁾

この強制送還の経験を振り返った語りは、ダニーロが経験した物質的そして社会的な剥奪の実態を如実に表している。第一段階で明らかになったように、ダニーロだけでなく、フランシスコもまた、定住化が進行していたからこそ、米国での生活基盤に投資を惜しまなかった。しかし、まさにそれ故に全てを失うという結果が生み出されたといえる。つまり、滞在の長期化そして定住化によって資産の蓄積がメキシコではなく米国に集中したことによって、ダニーロやフランシスコは家族との生活を失うばかりでなく、物質的な蓄積をすべて剥奪された状態でメキシコにおいて新たな生活を始めることを余儀なくされた。

また、クララは、「米国へ行く前よりも強制送還後のほうが極めて悪い状況にある」⁽¹⁰⁾と述べたように、帰国後の生活において経済的に極めて困難な状況におかれている。この要因として、クララは強制送還によって物質的および社会的な剥奪を受けただけでなく米国での滞在の長期化によってメキシコにおける社会関係資本を喪失したからだと考えられる。強制送還後にクララは親戚や息子家族のいるメキシコ都市部、ネサワルコヨトルへと戻ったものの、家族から受けられる最小限の支援に限られた脆弱な社会関係によって、安定した職を得られないまま経済的に困窮した生活を送らざるをえない。

ここで再び、幼少期に親に連れられて米国に移住し、物心がつく前から米国で育ったアルフォンソの事例をとりあげよう。アンダークラスとも言うべき米国社会に同化し刑務所に収監された経験を持つアルフォンソは、米国において資産を蓄積してきたクララやダニーロと比べて、物質的な意味において失ったものはそう多くない。しかし、強制送還はアルフォンソに強い社会的剥奪をもたらした。なぜなら、彼にとっての故郷とは家族や仲間の住むロサンゼルススのゲットーであり、メキシコはアルフォンソにとって一度も足を踏み入れた事のない未知の国だったからである。

最初の強制送還後、アルフォンソは国境沿いの町に滞留しながら米国の故郷を目指し何度も越境を試みたが、その度に警察や移民取締局に捕まり強制送還されている。しかし、「もしメキシコに知り合いがいたら、もしだれか頼れる人がメキシコにいたら、もっと早くメキシコに戻ってきていたと思う。」⁽¹¹⁾と述べるように、彼自身もそれが不毛な繰り返しである事を理解していた。アルフォンソは、メキシコに戻る場所がなかったからこそ、

米国へと向かわざるを得なかったのである。

旧来の移民研究では、帰国は移住プロセスにおける「自然」な成り行きとされ、出身地域の家族や友人のもとに帰ることが前提とされる帰国に負担は生じないと考えられてきた。[Da Vanzo 1976 cited in Gmelch, 1980 : 142]。しかし、長い滞在期間を経て深く根付いてきた米国社会から、突然“故郷”へと送り返されたアルフォンソをはじめとする被強制送還者に、そのような前提はもはや成立していない。

5. おわりに

本稿は、近年の移民規制の厳格化を背景に進行する強制送還の構造的メカニズムについて、米国からメキシコへ強制送還された帰国者のライフヒストリーを強制送還前後の二段階に位置付けながら「重層的な剥奪」という概念とともに再構築することによって明らかにすることを試みた。強制送還前にあたる第一段階では、強制送還者は「非合法」移民としてデポータブルな存在であるがゆえに、越境的なモビリティが剥奪される。このような移民規制の厳格化が移民のライフサイクルと連動することによって、移民の定住化が進行し、トランスナショナルな社会空間が断裂する傾向にあった。それゆえに、移民は強制送還後の第二段階において、物理的および社会的剥奪を受けるだけでなく、社会関係が脆弱化したメキシコにおいて更に周縁化されることを明らかにした。

本稿を結ぶにあたって、これまでに取り上げた事例を相対化する参照点の一つとして、「非合法」移民でありながら米墨間において自発的な循環移動を繰り返してきたハイメの事例に言及したい。貧しい農村地域出身のハイメは、米墨の二国間協定ブラセロプログラムの農業従事者として働いた後、国境管理が緩やかであった80年代から90年代初期まで「非合法」移民として循環移動を繰り返してきた。この往還的な移動経験を続けることによって、ハイメはメキシコ都市部に土地を購入し自宅を建設するまでいたった。「非合法」移民であったにも関わらず、その当時の米国の境界管理が比較的緩やかであったからこそ、このようなトランスナショナルな生存戦略を維持し拡張することが可能であった。このような事例を念頭におくと、現在の米国における社会的排除の傾向と移民規制の厳格化によって引き起こされた非自発的な帰国は、帰国者に困難と痛みを生じさせ、かれらの生存戦略に大きな制約を課し更なる周縁化をもたらしている。

移民規制レジームの変遷が被強制送還者に及ぼす「重層的な剥奪」の構造的メカニズムとその帰結を詳らかにした本稿は、国家の境界管理がトランスナショナルな社会空間に及ぼす制約的側面を再検討しただけでなく、今後さらに強制送還後の移民の経験に関する理論的展開を試みる為の基盤となり得るだろう。

註

- (1) 2012年2月28日に行われたインタビューから。
- (2) 例えばMenjívar 2006, Waldinger and Fitzgerald 2004を参照。
- (3) 警察によって道路交通網にチェックポイントと呼ばれる交通関門が設けられ、運転免許証を持っていない「非合法」移民が拘束され、移民取締局に身柄を引き渡されてから強制送還に至るケースも報告されている [Alarcón 2012]。
- (4) このプログラムの基盤となる電子ID認証は1996年法が可決されると同時に議論され、1997年から同プログラムが試験的に導入されたものの、本格的な運用には至らなかった。しかし、2005年に移民取締強化を推し進めた第二次ブッシュ政権下において、ウェブ上のサービスの導入など様々な改良を

- 加えられ、本格的に運用されるに至った [Rosenblum 2011]。
- (5) 2012年3月12日に行われたインタビューから。
 - (6) 2012年2月28日に行われたインタビューから。
 - (7) 従来の同化理論では移民は均質なホスト社会へと同化していくとされたが、ポルテスらによって提示された分節的同化理論はアメリカ社会自体が多様化し分節化している事から、移民は米国社会における異なる社会集団に準じて、それぞれ異なる同化を辿るとした [Portes and Zhou 1993]。
 - (8) 2012年3月4日に行われたインタビューから。
 - (9) 2012年3月11日に行われたインタビューから。
 - (10) 2012年2月20日に行われたインタビューから。
 - (11) 2012年3月10日に行われたインタビューから。

参考文献

- Alarcón, Rafael & Becerra, William 2012 “¿Criminales o víctimas? La Deportación de Migrantes Mexicanos de Estados Unidos a Tijuana, Baja California,” *Norteamérica*, 7(1): 125-148.
- Anderson, Bridget, Gibney, Matthew J. & Paoletti, Emanuela (eds.) 2013 *The Social, Political and Historical Contours of Deportation, Immigrants and Minorities, Politics and Policy*. Springer Science +Business Media New York.
- Barnes, Matt 2005 *Social Exclusion in Great Britain: An Empirical Investigation and Comparison with the EU*. Ashgate Publishing Company.
- Cerrutti, Marcela & Massey, Douglas 1990 “Trends in Mexican Migration to the United States, 1965 to 1995,” Durand, J. and Massey D. S. (ed.) *Crossing the Border: Research from the Mexican Migration Project*. Sage Foundation, pp. 17-44.
- Coleman, Mathew & Kocher, Austin 2011 “Detention, Deportation, Devolution and Immigrant Incapacitation in the US, post 9/11,” *The Geographical Journal*, 177(3): 228-237.
- De Genova, Nicholas & Peutz, Nathalie (eds.) 2010 *The Deportation Regime: Sovereignty, Space, and the Freedom of Movement*. Duke University Press.
- Fekete, L. 2005 “The deportation machine: Europe, asylum and human rights,” *Race and Class* 47(1): 64-78.
- Fix, M. & Zimmerman, W. 2001 “All under one roof: Mixed-status families in an era of reform,” *International Migration Review* 35(2): 397-419.
- Gibney, Matthew J. 2008 “Asylum and the expansion of deportation in the United Kingdom,” *Government and Opposition*, 43(2): 146-167.
- Gibney, Matthew J., & Randall, Hansen 2003 “Deportation and the Liberal State: The Forcible Return of Asylum Seekers and Unlawful Migrants in Canada, Germany, and the United Kingdom,” UNHCR New Issues in Refugee Research Working Paper, no. 77, <http://www.unhcr.org/3e59de764.html>.
- Gmelch, George 1980 “Return migration,” *Annual Review of Anthropology*, 9: 135-159
- Golash-Boza, Tanya 2012 *Due Process Denied: Detention and Deportations in the United States*. Routledge.
- Goldring, Luin 1999 “Desarrollo, Migradólares y la Participación ‘Ciudadana’ de los Norteños en Zacatecas,” Miguel Moctezuma and Héctor Rodríguez Ramírez (eds.) *Impacto de la Migración y las Remesas en el Crecimiento Económico Regional*, pp. 77-87.
- Goldring, Luin 2003 “Gender, Status, and the State in Transnational Spaces: The gendering of political participation and Mexican Hometown Associations,” Pierrette Hondagneu-Sotelo (ed.) *Gender and U.S. Immigration: Contemporary Trends*. University of California Press, pp. 341-358.
- Guarnizo, Luis E. & Smith, Michael P. 1998 *Transnationalism From Below*. Transaction Publisher.
- Hagan, Jacqueline M., Eschbach, K. & Rodriguez, Nestor 2008 “U.S. Deportation policy, family separation, and circular migration,” *International Migration Review* 42(1): 64-88.
- Hagan, Jacqueline M., Rodriguez, Nestor & Castro Brianna 2011 “Social effects of mass deportation by

- the United States Government, 2000–10,” *Ethnic and Racial Studies* 34(8): 1374–1391.
- Hernández-León, Rubén 2008 *Metropolitan Migrants: the migration of urban Mexicans to the United States*. University of California Press.
- Kanström, Daniel 2007 *Deportation Nation: Outsiders in American History*. Harvard University Press.
- Kanström, Daniel 2012 *Aftermath: Deportation Law and the New American Diaspora*. Oxford University Press.
- 小井土彰宏 2005 「グローバル化と越境的社会空間の編成——移民研究におけるトランスナショナル視角の諸問題」『社会学評論』56(2): 381–398.
- 小井土彰宏 2013 「第3章 現代アメリカ合衆国における移民の社会運動と公共圏の再編成——重層的境界構造の転換と非正規移民たちの熟議への参加——」船橋晴俊・壽福眞美編『公共圏と熟議民主主義——現代社会の問題解決』法政大学出版社, 65–94.
- Massey, Douglas Alarcón, Rafael, Durand, Jorge, González, Humberto 1987 *Return to Aztlan: The Social Process of International Migration from Western Mexico*. London, University of California Press.
- Massey, Douglas 1986 “The settlement process among Mexican migrants to the United States,” *American Sociological Review* 51: 670–85.
- Massey, Douglas Durand, Jorge & Malone, Nolan 2002 *Beyond Smoke and Mirrors: Mexican Immigration in an Age of Economic Integration*. Russell Sage Foundation.
- Menjívar, Cecilia 2006 “Liminal legality: Salvadoran and Guatemalan immigrants’ live in the United States,” *American Journal of Sociology* 111(4): 999–1037.
- Nyers, Peter 2003 “Abject cosmopolitanism: The Politics of protection in the anti deportation movement,” *Third World Quarterly* 24(6): 1069–1093.
- Rosenblum, Marc R. 2011 “E-verify: Strengths, Weaknesses, and Proposals for Reform,” Migration Policy Institute, Insight: United States Immigration Policy Program. Retrieved November 17, 2012. <http://www.fosterquan.com/news/everify0211.pdf>.
- Ruben, Ruerd, van Houte, Marieke and Davids, Tine 2009 “What determines the embeddedness of forced-return migrants? Rethinking the role of pre- and post-return assistance,” *International Migration Review* 43(4): 908–937.
- Phoung, Catherine 2005 “The removal of failed asylum seekers,” *Legal Studies*, 25(1): 117–141.
- Portes, Alejandro & Zhou, Min 1993 “The New Generation: Segmented Assimilation and Its Variants,” *Annals of the American Academy of Political Social Science*, 530: 74–93, Interminority Affairs in the U.S.: Pluralism at the Crossroads, Sage Publications, Inc. in association with the American Academy of Political and Social Science.
- Schuster Liza & Majidi, Nassim 2013 “What happens post-deportation? The experience of deported Afghans,” *Migration Studies* 1(2): 221–240.
- Smith, Robert 2006 *Mexican New York: Transnational Lives of New Immigrants*. University of California Press.
- Waldinger, Roger & Fitzgerald, David 2004 “Transnationalism in question,” *American Journal of Sociology* 109(5): 1177–95.
- Waslin, Michele 2010 “The Secure Communities Program: Unanswered Questions and Continuing Concerns,” *Immigration Policy Center*. Retrieved January 4, 2013, http://elpasotimes.typepad.com/files/secure_communities_updated_110410-1.pdf.

(一橋大学社会学研究科博士後期課程 makiko.iio@gmail.com)